

3. 共面条件

3-1. 内分・外分の公式

空間ベクトルでも、内分・外分の公式は、平面と全く同じです。なぜなら、

線分 AB を $m:n$ に分ける点の位置ベクトルを考える際は、平面 OAB 上で考える

からです。

[例] 三角形 ABC の重心 G の位置ベクトル

三角形 ABC の重心を G, 線分 BC, AC の中点をそれぞれ M, N とします。「AG:GM = 2:1」だから、平面 OAM 上で考えて、

$$\overrightarrow{OG} = \frac{1}{3}\overrightarrow{OA} + \frac{2}{3}\overrightarrow{OM} \dots \textcircled{1}$$

次に、平面 OBC 上で考えて、

$$\overrightarrow{OM} = \frac{1}{2}\overrightarrow{OB} + \frac{1}{2}\overrightarrow{OC} \dots \textcircled{2}$$

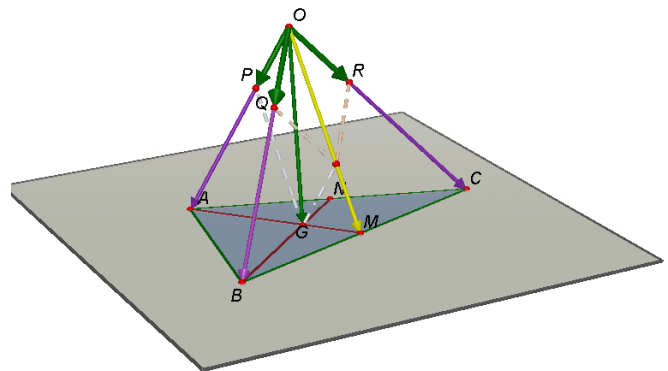
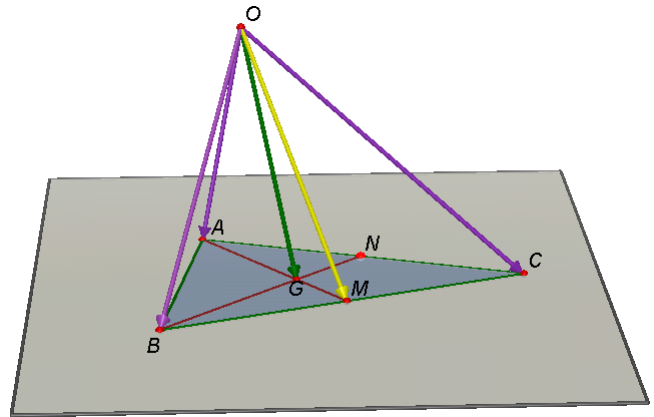
①, ②より、

$$\overrightarrow{OG} = \frac{1}{3}\overrightarrow{OA} + \frac{2}{3}\overrightarrow{OM} = \frac{1}{3}\overrightarrow{OA} + \frac{2}{3}\left(\frac{1}{2}\overrightarrow{OB} + \frac{1}{2}\overrightarrow{OC}\right) = \frac{1}{3}\overrightarrow{OA} + \frac{1}{3}\overrightarrow{OB} + \frac{1}{3}\overrightarrow{OC}$$

[注] 線分 OA, OB, OC を 1:2 に内分する点を、それぞれ P, Q, R とすると、

$$\overrightarrow{OG} = \overrightarrow{OP} + \overrightarrow{OQ} + \overrightarrow{OR}$$

となることを表します。



3-1-1. Cabri3D による検証

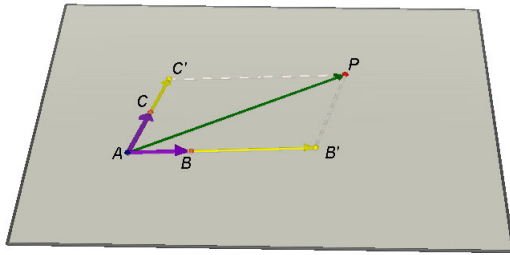
O, A, B, C を動かしてください。点を上下に移動するには「Shift キー」を押したままで Drag します。また視点を変えるには、マウスの右ボタンを押したままで「ぐりぐり」します。

<center of gravity.html>

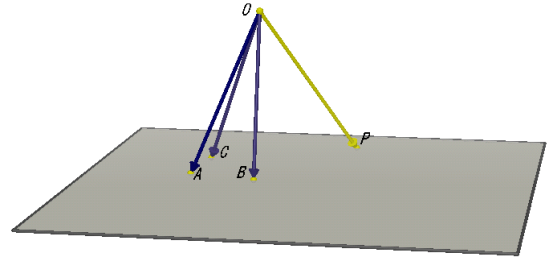
3-2. 共面条件

$\begin{aligned} P \text{が平面} ABC \text{上にある} &\iff \overline{AP} = s \overline{AB} + t \overline{AC} \quad (s, t \text{ は任意の実数}) \\ &\iff \overline{OP} - \overline{OA} = s (\overline{OB} - \overline{OA}) + t (\overline{OC} - \overline{OA}) \\ &\iff \overline{OP} = (1-s-t) \overline{OA} + s \overline{OB} + t \overline{OC} \\ &\iff \overline{OP} = \alpha \overline{OA} + \beta \overline{OB} + \gamma \overline{OC} \quad (\alpha + \beta + \gamma = 1) \end{aligned}$

(ただし O は, 平面 ABC 上に無い任意の点)



$$\overline{AP} = s \overline{AB} + t \overline{AC}$$



$$\overline{OP} = (1-s-t) \overline{OA} + s \overline{OB} + t \overline{OC}$$

4 つの表現は全て同値です. 2 行目以外は全て大切です. また「 $1-s-t=\alpha, s=\beta, t=\gamma$ 」とおくと, 「 $\alpha+\beta+\gamma=1$ 」ですから, 3 行目から 4 行目にはすぐ移れます. よって本質的には, 「始点が平面上にあるとき」と「始点が平面上に無いとき」の二つの場合になります. この公式も, 図と合わせて理解しておく事が大切です.

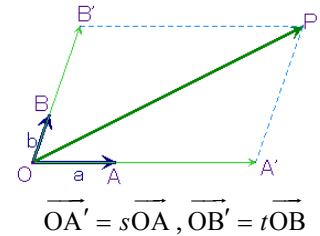
4-1. 始点が平面 ABC 上にあるとき

平面上に互いに平行でなく、かつ $\vec{0}$ でない二つのベクトル \vec{a} と \vec{b} がある時、平面上の任意の点 P に対し、

$$\vec{OP} = s\vec{a} + t\vec{b} \quad (s, t \text{ は実数})$$

の形にただ一通りに表せます。

【注】 P を通り直線 OB に平行な直線と OA の交点を A', P を通り直線 OA に平行な直線と OB の交点を B' とするとき、「 $\vec{OA}' = s\vec{OA}$, $\vec{OB}' = t\vec{OB}$ 」と一通りに書け、かつ「 $\vec{OP} = \vec{OA}' + \vec{OB}'$ 」となることから分かります。

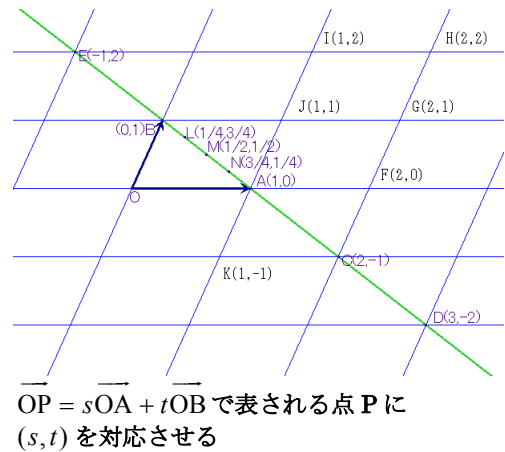


このとき、 (s, t) の組は、

A(1,0), B(0,1) としたときの座標のようなもの (斜交座標)

になります。

以上のことは、平面ベクトルと全く同様です。つまりこの場合は「空間内の平面」であることは意識しません。いわば、高層ビルの 50 階のフロアーを歩いているようなものです。



4-1-1. Cabri3D による検証

P, A, B, C を動かして、 (s, t) の変化を見てください。点を上下に移動するには「Shift キー」を押したままで Drag します。また視点を変えるには、マウスの右ボタンを押したままで「ぐりぐり」します。

[OP=sOA+tOB.html](#)

4-2. 始点 O が平面 ABC 外にあるとき

P が平面 ABC 上にある条件は,

$$\overline{OP} = (1-s-t)\overline{OA} + s\overline{OB} + t\overline{OC} \iff \overline{OP} = \alpha\overline{OA} + \beta\overline{OB} + \gamma\overline{OC} \quad (\alpha + \beta + \gamma = 1)$$

です。まず例で確かめてみます。A', D, E はそれぞれ線分 OA, BA, CA を 1:3 に内分する点とします。このとき A'D//OB かつ A'E//OC となります。従って,

P=D のとき,

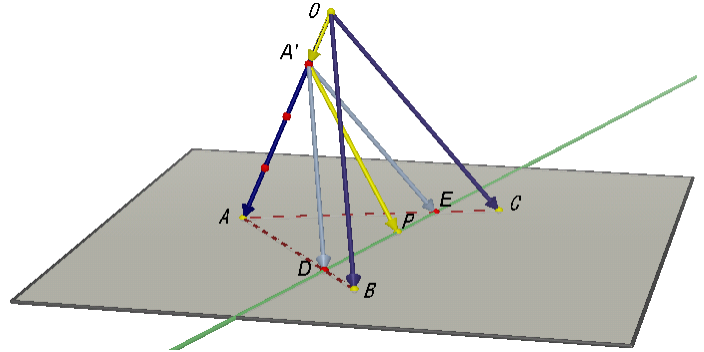
$$\overline{OP} = \overline{OD} = \overline{OA'} + \overline{A'D} = \frac{1}{4}\overline{OA} + \frac{3}{4}\overline{OB}$$

$$\rightarrow D(\alpha, \beta, \gamma) = D\left(\frac{1}{4}, \frac{3}{4}, 0\right)$$

P=E のとき,

$$\overline{OP} = \overline{OE} = \overline{OA'} + \overline{A'E} = \frac{1}{4}\overline{OA} + \frac{3}{4}\overline{OC}$$

$$\rightarrow E(\alpha, \beta, \gamma) = E\left(\frac{1}{4}, 0, \frac{3}{4}\right)$$



$$\left[\alpha = \frac{1}{4} \text{ のとき} \right]$$

このように、D, E に対しては「 $\alpha + \beta + \gamma = 1$ 」が成り立っています。実は、P が直線 DE 上の任意の点のときも成り立ちます。なぜなら、P が直線 DE 上にあるとき、平面 ADE 上で考えて、

$$\overline{A'P} = u\overline{A'D} + (1-u)\overline{A'E} = \left(\frac{3}{4}u\right)\overline{OB} + \frac{3}{4}(1-u)\overline{OC}$$

したがって、

$$\overline{OP} = \overline{OA'} + \overline{A'P} = \frac{1}{4}\overline{OA} + \left(\frac{3}{4}u\right)\overline{OB} + \frac{3}{4}(1-u)\overline{OC} \dots (*)$$

ゆえに、

$$\alpha + \beta + \gamma = \frac{1}{4} + \frac{3}{4}u + \frac{3}{4}(1-u) = \frac{1}{4} + \frac{3}{4} = 1 \dots (**)$$

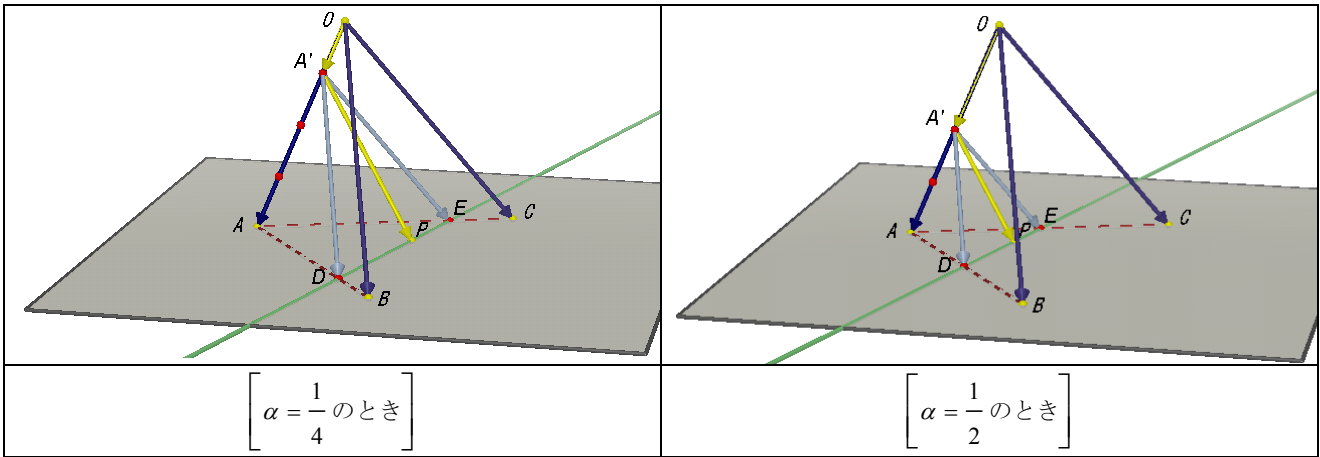
さらに詳しく見てみましょう。前項の(*)より、

$\vec{OP} = \frac{1}{4}\vec{OA} + \beta\vec{OB} + \gamma\vec{OC} \quad \left(\beta + \gamma = \frac{3}{4}\right)$ で表される点 P の軌跡は、上図の直線 DE です。(ただし、A, D, E はそれぞれ線分 OA, BA, CA を 1:3 に内分する点)。

E はそれぞれ線分 OA, BA, CA を 1:3 に内分する点)。

同様に、 $\vec{OP} = \frac{1}{2}\vec{OA} + \beta\vec{OB} + \gamma\vec{OC} \quad \left(\beta + \gamma = \frac{1}{2}\right)$ で表される点 P の軌跡は、下図の直線 DE です。(ただし A, D, E はそれぞれ 線分 OA, AB, AC の中点)

ただし A, D, E はそれぞれ 線分 OA, AB, AC の中点)

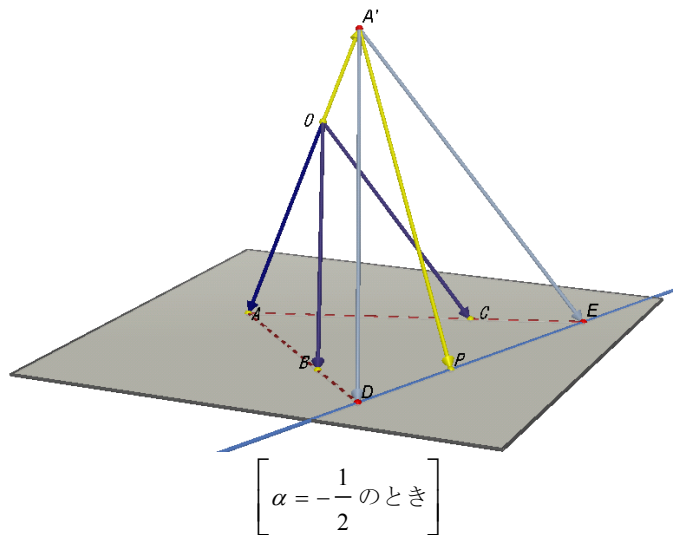


同様に、

$$\vec{OP} = -\frac{1}{2}\vec{OA} + \beta\vec{OB} + \gamma\vec{OC} \quad \left(\beta + \gamma = \frac{3}{2}\right)$$

で表される点 P の軌跡は、図の直線 DE です。

(ただし A, D, E はそれぞれ 線分 OA, BA, CA を 1:3 に外分する点)



以上から、P が平面 ABC 上にある条件は、

$$\vec{OP} = (1-s-t)\vec{OA} + s\vec{OB} + t\vec{OC} \iff \vec{OP} = \alpha\vec{OA} + \beta\vec{OB} + \gamma\vec{OC} \quad (\alpha + \beta + \gamma = 1)$$

であることが納得できると思いますが、如何でしょうか？

4-2-1. Cabri3D による検証.

点を上下に移動するには「Shift キー」を押したままで **Drag** します. また視点をを変えるには, マウスの右ボタンを押したままで「ぐりぐり」します.

(a) $\overline{OP} = \frac{1}{4}\overline{OA} + \beta\overline{OB} + \gamma\overline{OC}$ $\left(\beta + \gamma = \frac{3}{4}\right)$ で表される点 P の軌跡です. P を Drag してください.

[s=quarter.html](#)

(b) $\overline{OP} = \alpha\overline{OA} + \beta\overline{OB} + \gamma\overline{OC}$ $(\beta + \gamma = 1 - \alpha)$ で表される点 P の軌跡です. 先の例では「 $\alpha = \frac{1}{4}$ 」で固定でしたが, 今度は点 A も Drag できます. α の値を色々代えることにより, P の描く軌跡がどう変化するか見てください.

[s=free.html](#)

(c) 最後は, 補助線など一切なしで, 点 P を平面 ABC 上で動かしてください. そして,

$$\overline{OP} = \alpha\overline{OA} + \beta\overline{OB} + \gamma\overline{OC}$$

と表したときの, (α, β, γ) の値の変化を見てください.

[s+t+u=1.html](#)

4-3. 斜交座標

平面では、「 $\overline{OP} = s\overline{OA} + t\overline{OB}$ 」で表される点 P に対し「実数の組 (s,t) 」を対応させると、「 (s,t) は $A(1,0), B(0,1)$ としたときの座標のようなもの」になります。これを $(\overline{OA}, \overline{OB})$ を基底にした斜交座標といいます。

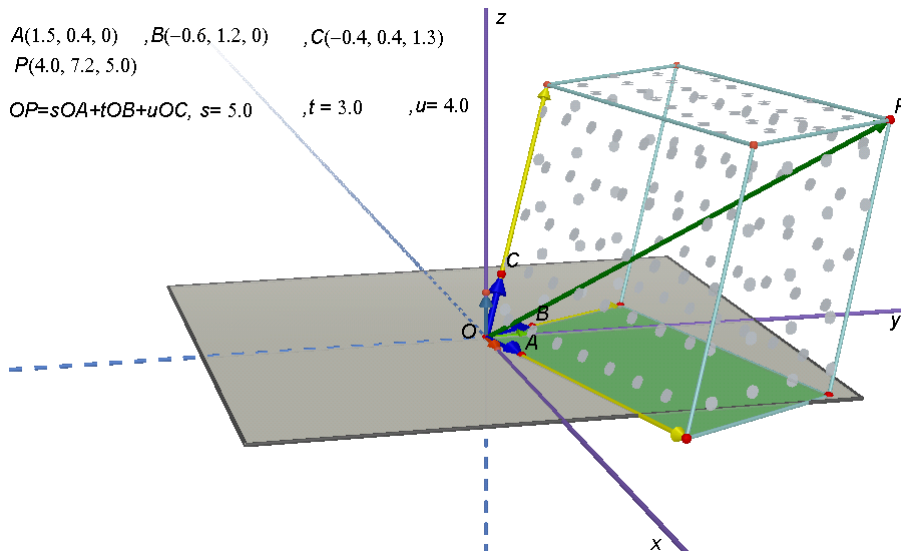
そして「 $|\overline{OA}| = |\overline{OB}| = 1, \overline{OA} \perp \overline{OB}$ 」(単位直交ベクトル)になっているときは、斜交座標は直交座標と同じになります。(よって「直交座標」は「斜交座標」の特別なものとして、「斜交座標」に含まれます。ちょうど正三角形が二等辺三角形に含まれるようなものです。)

これと同様に、空間でも「 $\overline{OP} = s\overline{OA} + t\overline{OB} + u\overline{OC}$ 」で表される点 P に対し「実数の組 (s,t,u) 」を対応させると、「 (s,t,u) は $A(1,0,0), B(0,1,0), C(0,0,1)$ としたときの座標のようなもの」になります。これを $(\overline{OA}, \overline{OB}, \overline{OC})$ を基底にした斜交座標といいます。

そして「 $|\overline{OA}| = |\overline{OB}| = |\overline{OC}| = 1, \overline{OA} \perp \overline{OB}, \overline{OB} \perp \overline{OC}, \overline{OC} \perp \overline{OA}$ 」(単位直交ベクトル)になっているときは、斜交座標は直交座標と同じになります。

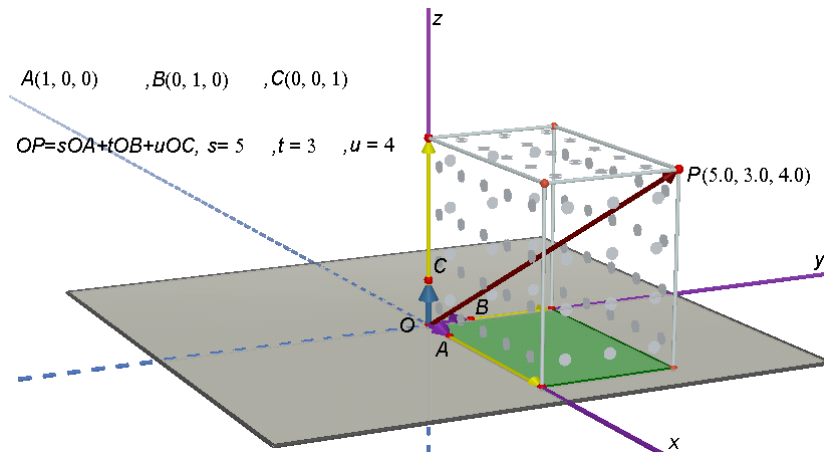
[例 1 (斜交座標)]

下の例では、P の成分は $(4.0, 7.2, 5.0)$ ですが、「 $\overline{OP} = s\overline{OA} + t\overline{OB} + u\overline{OC}, (s,t,u) = (5,3,4)$ 」ですから、P の斜交座標は $(5,3,4)$ で、二つは一致しません。



[例 2 (直交座標)]

下の例では, $A(1,0,0), B(0,1,0), C(0,0,1)$ です. このとき, P の成分は $(5,3,4)$ で
「 $\overrightarrow{OP} = s\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OB} + u\overrightarrow{OC}, (s,t,u) = (5,3,4)$ 」より, P の斜交座標も $(5,3,4)$ で,
二つは一致します.



4-3-1. Cabri3D による検証

(a) [斜交座標] P, A, B, C を動かして, (s, t, u) の変化を見てください.

shakou-zahyou.html

(b) [直交座標] P を動かして, (s, t, u) の変化を見てください.

chokkou-zahyou.html

点を上下に移動するには「Shift キー」を押したままで Drag します. また視点を変えるには, マウスの右ボタンを押したままで「ぐりぐり」します.